

23 貴金属装身具 Jewellery



さまざまな加工を施し、無機質な金属を美しい作品に!

貴金属装身具製作の歴史は古く、その加工技術は時代とともに変わってきました。しかし、いずれの時代でも美をかたち作るという点は変わっていません。競技では、18金の板材、丸線材、角線材、および2種類の金ろう材が前もって支給されます。それら指定の材料を使って、材料の切り出し、やすり掛け、ろう付、表面の仕上げまでの全工程を手作業で行い、そのデザインの優美さと仕上がりの綺麗さを競います。美しいものを作り上げる、繊細な手さばきに注目です。



基本の作業を大切に、 丁寧かつ迅速な作業で美をカタチにする!

ポイントとなるのは確実な作業力。貴金属の特性を活かし、繊細な装身具をミスなく製作するには、作業の確実性が重要。デザインが優れていることはもちろんですが、迅速かつ丁寧な作業が何よりも大切です。製作に必要な基本的技法の種類や技能は国際大会と同等レベルが求められ、それぞれの工程で一切の妥協は許されません。同時に、デザインをカタチにする応用技術があって、初めて優美な貴金属装身具が完成します。

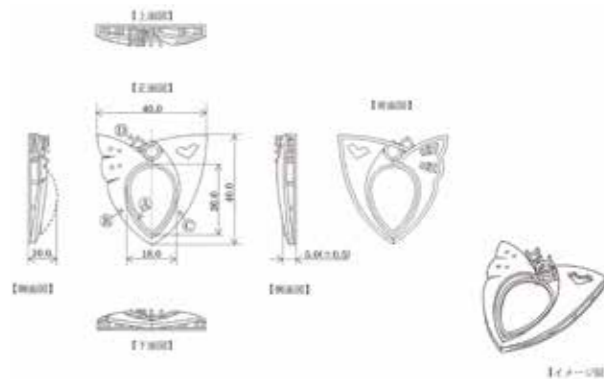
細部にまで
配慮し、美しく
仕上げる!



競技について

競技時間 2日/11時間

今年の競技課題は3つに分割されており、課題ごとに採点が行われます。1日目には課題の外枠部分と内側に納める飾り部分を製作。2日目には前日に製作した3つの課題を組み合わせ、仕上げまでを行う作品づくりをします。作品は指定のモチーフでデザインを起こしてそれをもとに製作、最後に仕上げ作業をした作品に対して総合評価が行われます。



参考:第57回技能五輪全国大会 課題図

競技職種と生活との関わり

金、銀、プラチナなどの貴金属や宝石を材料として、様々な形に加工されたペンダントや指輪、ブレスレット、ブローチなどを作る職種です。天然の宝石は、その希少性が尊ばれ、色・形状も一つひとつ異なります。自分の指先から、世界で1つだけのジュエリーを生み出せる、そこがこの仕事の最大の魅力だと言えます。貴金属装身具製作技能士の活躍の場は、主に宝飾店やジュエリー工房です。きわめて専門的な職人世界ですが、需要の絶えない活発な業界です。

2019年大会の成績

第57回技能五輪全国大会出場時点 / 2019年11月

金	(株)ミキモト装身具	坪口 翔一さん(東京都)
銀	(学)水野学園 専門学校ヒコ・みづのジュエリーカレッジ	中野 沙紀さん(東京都)
	(学)水野学園 専門学校ヒコ・みづのジュエリーカレッジ	山本 美杏さん(東京都)
銅	山梨県立宝石美術専門学校	高塚 樹さん(山梨県)
	(学)水野学園 専門学校ヒコ・みづのジュエリーカレッジ大阪	青木 優心さん(大阪府)
敢闘	(学)水野学園 専門学校ヒコ・みづのジュエリーカレッジ	豊蔵 真琴さん(東京都)

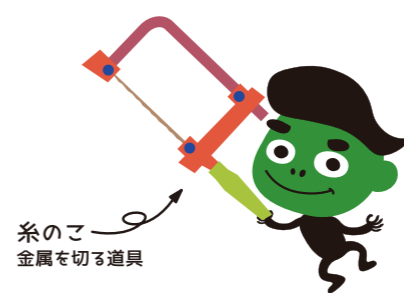
金賞
坪口 翔一さん
(株)ミキモト装身具



金賞に満足せず、
更に技術を
高めていきたいと
思います!



2019年大会
金賞作品



ルーペ
細かい作業のときに
大きく表示する道具

